

わたしたちの物語 ～天真爛漫な日常～

田口佳代子さん（八十八才）

& 大正大学社会福祉学科3年 橋優希さん

その壁の絵はね、孫が画伯で。

幼い頃に、いっぱい書いてくれたの。

貼ったり書いたりしてあって残してあるの。

その孫も今は高校生で、私は美容師をしていたから「カットしてくれ」「切って来るのね。」

でも男の子だから何か聞いても、「うん。」「あぁ。」「とかばっかりで。

三か月に一回ぐらいかな、ここだね、焼肉パーティーするんですよ。

皆大きくなったから、家がギョウギョウよ。

冷房をガンガンつけても暑いなのなんの。

肉や何か私を買うから、美味しいの買っておいでねって。

結構だから、楽しくやっていますよ。

私ね、体を動かすのが好きだから、運動を良くしているのね。

同年代はいないわよ。

ハハ歳なもの。

だから、何かの集りに行っても、だいたい長老になっちゃうわ、私。

私と二十歳も若い人たちと一緒にいるの。

皆仲良くしてくれるから嬉しいの。

若い人たちと一緒にいると良いじゃない。

足だけはね、動かしていないと、頭の方もぼけてくるから。

だからね、頑張っています。



それに抗っているから元気なのかしらね。

それとね、『カスタネット』っていう絵本読み聞かせの階に入っているのよ。
小学校やお寺さんで読まのの。、。
楽しいですよ。

歳を重ねるにつれて、口角がどんどん下がってきてね。下だね。
だからね笑いの。
エレベーターに乗って、その中で、「っ」「ん」「ん、笑ったよの。
変なおばあさんでしょ。
くよくよしないの。
ポジティブになんでも考える。悲しんだって同じじゃない。
それが解決するかってそうじゃないからね。
良い方に良い方にとって。

娘に、「お母さん何にも考えなくていいでしょ」「ん」って
「ん、何にも考えなくていいよ」「ん」って。
何にもさ、私、くよくよ考えない人なの。
能天気なのかもしれないわね、私。
ふふふっ。

